

Knowledge Report

IX Knowledge Inc. PR MAGAZINE
Vol.49 SPRING 2025

❶ あすへの対談 安藤社長が聞く！
顧客に選ばれる健保組合であり続けたい
ICT業界で働く組合員と家族の
“健康”“生活”“安心”をつくる
設立当初からの魂を引き継いで
ゲスト：鈴木 克仁さん
東京都情報サービス産業健康保険組合（TJK）専務理事

❷ ユーザーインタビュー
IKIのサービスが選ばれる“わけ”【32】
お客さま：株式会社日立システムズ

❸ [特別企画]ブレイクタイム
楽しい城めぐり
～戦国時代の城にいざ、出陣～
山城ガールむつみ氏

❹ わが社の匠
トップ・エンジニアの軌跡29
野村 貴広

❺ 次の25年に向けてIKIの成長を“つなぐ”

❻ IKIのSDGs
産学連携で社会的課題解決への取り組みを支援

❼ [コラム]
神保町を歩く

[今号の表紙]

春の風物詩として4月から5月に見頃を迎えるネモフィラ。EXPO 2025 大阪・関西万博が開催される大阪には人気のネモフィラ畑があり、毎年、青い絨毯となって訪れる人々を魅了します。ネモフィラの花言葉は「成功」。小さな花が一つひとつ輝く様子は、自然の美しさと力強さを感じさせ、見る人に希望と前向きな気持ちを与えてくれます。

IKI ナレッジ・レポート vol. 49

令和7年4月1日発行

編集：アイエックス・ナレッジ株式会社

〒108-0022 東京都港区海岸3-22-23 MSCセンタービル

TEL.03-6400-7000(代) URL <https://www.ikic.co.jp>

本文中に掲載されている商品名およびサービス名は各社の商標または登録商標です。
本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

安藤社長が聞く！

顧客に選ばれる健保組合であり続けたい



ICT業界で働く組合員^{※1}と家族の “健康”“生活”“安心”をつくる 設立当初からの魂を引き継いで

1975年の設立から今年で50周年を迎える東京都情報サービス産業健康保険組合(TJK)は、「“健康”をつくる。“生活”をつくる。“安心”をつくる。」のパーパスの下、加入員^{※2}が健やかに暮らすことをミッションに掲げ、「選ばれる健康保険組合」を目指している。45万人を超える加入員の健康増進に取り組むTJKの専務理事として、2020年からその重責を担う鈴木克仁さんに、安藤社長がお話を伺いました。

※1 組合員…加入企業に所属する社員 ※2 加入員…被保険者および被扶養者

東京都情報サービス産業
健康保険組合(TJK) 専務理事

鈴木克仁

Katsuhito Suzuki

安藤文男

Fumio Ando

ICT業界の歴史を 間近で感じて

安藤…鈴木専務理事は、大学卒業後40年近くTJKに勤められてきたということですが、まずはそのご経歴をお聞かせください。

鈴木…学生時代は社会のためになる仕事に従事したいと考え公務員を目指していましたが、公務員もなかなかの狭き門で就職をどうしようかと考えていたときに、知人から健保組合という組織で人を募集していると聞いて、1986年TJKに入職しました。

入職して初めて配属されたのは現在の給付グループでした。交通事故などの第三者行為や労災保険によるケガなどへの対応を1年間担当し、2年目に電算室に移りました。今で言う情報システムですね。

安藤…システム部も経験されたのですね。鈴木…昔の汎用機ですのでMT(Magnetic Tape…磁気テープ)でバックアップをとる時代です。当時は夜9時くらいまでかかる業務があり、バックアップには2時間くらいかかりましたので、うまく処理が終われば11時くらい。途中でアベンド(異常終了)すると元に戻さなければいけなくなり、帰れないという日も結構ありましたね。その電算室には2年間いました。

安藤…鈴木専務理事が入職した当時、TJKの本部はどこにありましたか。

鈴木…虎ノ門です。1年目の給付グループの時は虎ノ門で勤務しました。しかし、2年目に異動した電算室は西新橋にありましたから、本部がある虎ノ門とは物理的な距離があり、本部とのコミュニケーションがうまくとれないまま4名の職員で電算室の仕事をしていました。そして翌年の1988年に電算室が入っていたビルの隣に今の西新橋保健センターが事務所として開館し、本部も移ってきました。

その後1989年から8年ほどは総務で採用と理事会、組合会、広報を担当し、それから業務畑に異動して編入などの仕事をしていました。そしてまた部長職として総務に戻り、事務長、常務理事を経て専務理事となり現在に至っています。安藤…ICT業界の歴史そのものを体験されているのではないかと思います。TJKの組合員は情報サービス産業に携わる方々ですから、電算室に行かれたのは良い経験になっていますね。

鈴木…そうですね。実は、私が入職した時の理事長が安藤社長のお父さまの安藤多喜夫さんでした。私が総務にいたときも安藤多喜夫さんが理事長でしたので、理事会や組合会、それらの懇親会でもいろいろお話をさせていただいたのを覚えています。

安藤…当時の組合員はどのくらいの人数

でしたか。

鈴木…1989年度は被保険者が約8万4千人でした。現在は、来年度予定で31万5千人です。

安藤…大変な成長をしましたね。

鈴木…そうですね。ICT業界の健保組合ですから、ICT業界の成長のおかげです。

組合員と家族の健康や 生活を守るために

安藤…TJKグループ全体としてのようなサービスを提供されているのかお聞かせください。

鈴木…TJK本体の他に、一般社団法人TJKベネフィット(以下、TJKベネフィット)、株式会社TJKリゾート(以下、TJKリゾート)があります。TJKは公法人ですので基本的には健康保険法に基づく事業を行っています。

一方、TJKベネフィットでは加入企業や加入員の方の福利厚生の一つとして、「生活」「安心」などのキーワードで保険斡旋や商品斡旋、施設提供といったTJKではできない公的保険以外のサービスを提供する事業を運営しています。また、TJKリゾートは3つの直営保養施設と成田運動場、レストラン「Kーキャビン」を運営受託している組織です。

TJKリゾートの設立経緯をお話しし



Guest Profile

東京都情報サービス産業健康保険組合 専務理事

鈴木 克仁 Katsuhito Suzuki

1962年生まれ。東京都昭島市出身。
1986年に東京都情報サービス産業健康保険組合に入職。
事務長、常務理事を経て2020年に専務理事に就任、現在に至る。趣味は読書。

す。このように、成田運動場をさまざまな用途で広くご活用いただくことで、一人でも多くの方に、「持っている価値があるよね」と思っていただけのようにわれわれがしていかなければいけないと思っています。

安藤…TJKでは加入員向けイベントを多く開催されていますね。

鈴木…はい。TJKの事業をまだ利用されていない加入員の方もいらっしゃいますので、イベントを通してサービスを知っていただくことを目的に開催しています。年間を通してこれほどたくさん主催している健保組合はほぼ皆無なのではないかと思っています。たとえば皇居ウォーキングというイベントがあります。集合場所の桜田門広場からスタートして

皇居を半周、TJKプラザ3階の直営レストラン「Kーキャンビン」まで約4キロ・約60分のコースを歩きます。歩いた後は、「Kーキャンビン」で参加者にコース料理を楽しんでいただくイベントです。こうしたイベントの開催はサービスの利用者を増やすためには合理的な事業だと思っていますので、今後もどんどん広めていきたいと思っています。

また、保養施設を利用するイベントもあります。ある程度参加者が限定されてしまいます。それに比べて先ほどの皇居ウォーキングは人数の制約をあまり受けず、何百名単位で募集できます。そのようなイベントを増やしていく、あるいは地方で開催していくことがTJKを知っていただくきっかけになると思います。



2025年度イベントラインアップ

企業とのコラボで
加入員にPR

安藤…加入員や加入企業とのコミュニ

ますと、昔は保養施設の運営を外部の会社へ委託していました。保養施設の利用料は基本的に夕食、朝食の食料費に充てるというのがルールでしたが、外部委託での会計は加入員に見えない部分が生まれてしまいますので、当時の理事長を含めて事務局のトップが、直営で、ガラス張りの会計でやっていこうとなりました。それが加入員にとって一番望ましい姿だと。TJKベネフィットが100%出資して1993年にTJKリゾートを設立し、TJKリゾート金谷城からスタートして今は全5施設を運営しています。このようにTJK本体とTJKベネフィット、TJKリゾートの3社で加入員の方へのトータルなサービスを提供しています。

全ての加入員に
バランスよくサービスを提供

いかなくてもいけない責任があると思っています。

鈴木…私は50年前のこの業界を存じ上げませんが、まだまだ産業的にそれほど力強くなかった当時、TJK設立のために尽力された方々は、やはり社員やその家族の方が健康で健やかに暮らすことが業界の最大の資産であると考えたのだと思います。この業界で働く組合員の健康や生活をしっかり守っていくんだ、つくっていくんだというのは設立当初からの魂としてありますので、われわれはその思いを持ち続け、将来にわたって持続して

安藤…運動施設やレストランの運営など他の健保組合ではなかなか見当たらない、非常に先進的なことをこれまでできています。そうした事業を運営するにあたって、当初はいろいろ議論があったと思います。

鈴木…ございましたね(笑)。何にお金をかけるかについてはいろいろな価値観があります。一般的に旅行はポピュラーなものですから保養施設についてはそん

なに大きな反対はないと思います。一方、ゴルフコースのある成田運動場はゴルフをされる方ともかく、されない方には不要に感じられるかもしれません。意思決定の場として理事会、組合会という会議体がTJKにはありますが、当然組合会でも「本当に必要なのか？」という意見がありました。それに対して、当時の理事長、専務理事を含めて「健康投資」ということで何とかご理解いただいたという経緯があったかと思っています。

成田運動場はゴルフだけでなく加入企業の新入社員研修向けに一日貸し切って、スナックゴルフやディスクゴルフなどをして、コミュニケーションや親睦を図る場として活用いただいているほか、子どものための開放日も年に数回設けていま

す。TJKには被保険者の方が31万5千人、家族や配偶者の方を含めると45万人の加入員がいらっしゃいます。首都圏を中心に全国に加入員の方はいらっしゃいますので、首都圏に集中してはいるのですが、バランスを考えながら不均衡にならないように事業をやっていくことが必要だと思っています。



安藤 文男

Fumio Ando

アイエックス・ナレッジ株式会社 代表取締役社長



ケーションについてはどのようにお考えですか。

鈴木…残念ながら、TJKは加入企業の社員の方からするとなかなか遠い存在だと思っています。まずTJKと各企業の総務や人事の方とが連携して、企業の担当者の方から社員の方にアナウンスしていただくというのが、TJKを認知していただくために一番効果的な気がします。たとえば家族や配偶者の方の健康診断の受診率を高めるために、TJKの名前でDMを送っていたのですが、配偶者の方からすると「TJKって何者だ？」という話になります。そこで加入企業のトップの方などの名前と連名でDMを出すと、会社と関係性が深いDMとなり見ていただきやすくなります。そのように地道にと言いますか、戦略を立ててコミュニケーションを取っていきたいと考えています。

安藤…TJKと企業がコラボレーションしてPRしていくことですね。

今、企業は「健康企業宣言」「健康経営優良法人」、健康優良企業「銀の認定」「金の認定」に取り組んでいます。これら認定保有において健保組合の中でTJKはどのくらいの位置にいますか。

鈴木…TJKより母数が大きい健保組合もありますので、数では一番ではありませんが、加入企業数に対する「健康企業宣言」や「健康経営優良法人」などの認定保有率はたぶんTJKが一番だと思っています。

ける人と受けない人のバランスを考えなければいけないことだと思っています。確かに医療を受けている人と受けていない人とのバランスを考えると2万5千円という選択肢もあるのかもしれませんが。人間ドックも今は自己負担5千円で提供していますが、他の健保組合では自己負担1万円というところもありますので、

います。

毎年私どもは翌年4月の採用の計画数を加入企業各社に聞いていますが、4月に実際に入社された新入社員の数を見ると、やはり認定を取得している企業とそれ以外の企業とでは計画数に対する充足率が十数ポイント違います。学生は企業のそうした取り組みをしつかりと見てい

るのではないかと思います。

将来を見据えた 料率とサービスの見直しを

安藤…TJKは今年50周年を迎えますね。節目の年に企画していることはございますか。

鈴木…おっしゃるとおり、TJKは今年設立から50周年、半世紀という節目の年を迎えます。現在、加入企業は1600社ほどあります。加入企業の事業主、加入員の皆さまに日頃の感謝・御礼と今後のご支援・ご協力をお願い申し上げたいと思っています。具体的には、4月から来年3月までの1年間に直営の保養施設や健診センターを利用される方、あるいは開催を予定しているさまざまなイベントへの参加者の方に記念のノベルティをお配りする予定です。また、10月1日の設立記念日には加入事業所向けに記念誌を発行してお配りすることも考えています。

安藤…節目の年を迎え、これからのTJK

この先も5千円というのはなかなか難しいかもしれません。そうはいつてもサービスレベルは下げたくないと思っています。ですから、健診も料率を上げるのであれば新サービスを考えることになると思います。現在は直営の健診センターが2カ所ありますが、非常に専門性が高く評判が良い施設です。もう一つ第3直営というのも継続協議になっています。そういったサービスのさらなる充実も含めて考えています。

さらに、料率改定をしていく上で「2030TJKデザイン」を作ろうと思っています。2030年のTJKの望ましい状態を議論して、どのような形が一番望ましいのかを探っていきます。2030年のデザインを見据えながらの料率改定が皆さんにとって納得感があると思っていますので、これからその議論を進めていこうと思っています。

選ばれる健保組合で あるために

安藤…TJKではパーパスを作りましたね。

鈴木…「健康」をつくる。生活をつくる。安心をつくる。ですね。このパーパスの下、加入企業と個人の組合員それぞれの満足度アップにも力を入れていかなければいけません。私は加入企業の社員の

の課題や取り組みについてどのようにお考えですか。

鈴木…TJKのポジショニングは、「中負担、高サービス」と考えています。中負担とは何かと言うと、加入員に負担していただく費用ですね。まず保険料がそうです。サービスを受けるときの利用料や受診料も受益者負担です。で、ある程度負担していただきますが中程度の負担として、最高のサービスを提供していくのがTJKのポジションだと思っています。保険料率で言うとTJKは14年連続で8.9%。一方、健康保険組合連合会（約1,400の健康保険組合からなる団体）の平均は今年度9.32%です。しかしながら、今後、少子高齢化から国へ拠出する高齢者医療負担金の増額は避けられませんか。2026年度には子育て支援のための支援金率も健康保険料に上乗せされるため、保険料率の見直しが必須の状況にあります。とはいえ、単純に料率を引き上げるだけではなく、いろいろな事業とのバランスを再検証していくことを考えています。

たとえば医療費の付加給付金（一部負担還元金）も、今は入院、外来、医薬品などの自己負担額が2万円を超えたときにその超えた分をTJKは組合員にお返ししています。国の健康保険組合事業運営指針というルールでは、その基準が2万5千円となっています。これは法律ではありませんが、国としては医療を受

方が健保組合を選べないことが一つ大きなキーだと思っています。毎年4月に新卒社員の皆さんが1万数千人入られます。学生が就職する会社を選ぶときには、A社、B社、C社といういろいろ選択肢があります。社風なのか、お給料なのか、職種なのか、勤務地なのかいろいろな要素があつて、たぶん選ばれていると思います。なかには健保組合を一つの要素として会社を選ぶという方もいないこともありませんが、大半はまずは会社を選ぶと思います。入社した会社の健保組合がたまたまTJKだった、あるいは他の健保組合だったと分かれると思います。

私は加入員の方をお客さまと呼んでいますが、お客さまは健保組合を選べないじゃないかと。それはこの資本主義経済の中ではおかしい話です。たとえば住民サービスが悪かったり役所の窓口の職員の対応が悪ければ引越すという選択肢があるけれども、健保組合の事業サービスが悪かったり職員の態度が悪かったりしても健保組合を選べないので会社を辞めるしかないですね。「加入員になっていただいたからには、TJKは皆さんが満足できる事業品質だったり接遇対応だったりをしたいかないとおかしいじゃないか」と、常々職員に言っています。それは公的保険だから強制加入だからという話ではなくて、選ばれる健保組合にならなければいけないと思っています。

そのためには、お客さまの支持アップ

お客さま：株式会社日立システムズ

日頃「しっかりとしたモノづくりと高品質のサービス」を標榜するIKIのサービス業務が、お客さま・ユーザーに、どのように評価されているか…。システムそのものやシステム開発のプロセス、管理運用の業務品質など、各種サービスのユーザー視点から見たその効果・成果のほどを、ユーザーの方に直接お聞きすることにしました。題して「IKIのサービスが選ばれる“わけ”」



ふか せ ゆういちろう
深瀬 雄一郎さん

公共情報サービス第一事業部 官公システム開発本部 官公システム開発第二部 部長

強みは粘り強さとコミュニケーション力

提供サービス：システム構築／システム運用・監視・保守

今回は、情報技術・製品・サービスの開発と提供を通じ、豊かな社会の実現に貢献するとともに、満足と感動をもたらす新たな価値の創造を目指し飛躍を続けている株式会社日立システムズさま。インタビューに応じていただいたのは、公共情報サービス第一事業部 官公システム開発本部 官公システム開発第二部 部長 深瀬 雄一郎さんです。

最初に深瀬様のご所属とご担当についてお聞かせください。

深瀬…私は公共情報サービス第一事業部の官公システム開発本部官公システム開発第二部に所属しています。官公システム開発本部は中央官庁系の業務を行っており、その中で当部は年金に関わるシステムを担当する部門となっています。

また、官公システム開発第二部にはメインフレームシステム（以下、ホスト系）を担当する部門とサーバー系システムを担当する部門の2つの部門があります。私はホスト系の開発とサーバー系の開発を統括管理する立場を担っています。

具体的にはどのようなシステムになりますか。

深瀬…ホスト系は、年金受給者に対して年金をお支払いする年金給付システムです。また、所得が一定基準を下回る年金受給者の生活を支援するために、年金に上乗せして支給する年金生活者支援給付金制度（以下、支援給付金制度）に対応した支援給付金システムについても当社が担当しています。

サーバー系は、年金事務所に相談に来られた方の予約や相談事跡を管理するシステムなどがあります。IKIさんをお願いしているのはホスト系の方で、開発と、いわゆる稼働維持／保守開発の業務をやっています。

ホスト系・サーバー系の2部門を統括管理

安藤…満足度アップに向けてどのような

保険制度の枠組みの中で付加価値を考える



を一番の目標にし続けたいと思っています。健保組合でお客さま相談室などの組織はまづないと思います。私は一般企業と同様にアンケートなり訪問なりDMも含めて、顧客満足度を高めるための組織を専門的に作りたと思っています。単なる健保組合にとどまらず、加入員の方からTJKのことを評価され続けたいという思いはものすごく強いです。

取り組みをイメージされていますか。

鈴木…国民皆保険や医療機関を自由に選べるフリーアクセスというのは、日本が世界に誇る素晴らしい保険制度です。この枠組みのベースは今後当面変わらないでしょうから、その枠組みの中の付加価値として考えてみようということですね。私はTJKの事業を「ベシック」「プライオリティー」「バリュー」と3つのカテゴリーに分けています。ベシックは、加入員が平等に全員受けられるサービスです。病院にかかって自己負担額2万円を超えた分は還元できるサービス。次に、プライオリティーは健康管理関係です。人間ドック、健診、メンタルヘルス、健康経営。ここが他の健保組合にはない特徴でありTJKの武器ですので、プライオリティーのサービスも今後はより強化していきたいですね。最後に、バリューとしての保養施設、イベント、運動場。これはバリューです。で、他の健保組合ではそんなにお金を回せないということでも取り組んでいきたいと思っています。繰り返しになりますが、私は加入員から「TJKでよかった」と言っていたために、このプライオリティーとバリューの事業のサービスレベルは維持していきたいと考えています。

安藤…では最後に、趣味などを伺いたいです。

鈴木…趣味は読書ですね。安藤社長の好きなゴルフに関係するのですが『名門再生太平洋クラブ物語』(著・野地秩嘉／出版…

プレジデント社)という本があります。この本には組織運営や社員を一つにまとめるノウハウやストーリーがノンフィクションで書かれています。私はこのようなビジネスストーリーが好きですね。

安藤…本日はどうもありがとうございます。

Basic	Priority	Value
法的等事業	健康管理事業	健康増進事業
- 保険料率8.9% - TJK独自の付加給付 - 医療費の自己負担上限 2万円 - 出産に伴う給付金 50万円プラス10万円	- 人間ドック、健康診断 - メンタルヘルス相談 - メンタルヘルスセミナー - 健康経営サポート	- 保養施設展開(直営施設、契約施設、補助金施設) - 多地域イベント開催 - フィットネス事業

ただいています。

――部長として部門を管理する立場とシステムに携わる立場の両面があると思いますが、普段はどのように業務をさせていらっしゃるのですか。

深瀬…私は日立製作所へ出向していた時期があります。当社は日立製作所にとってのパートナー会社ですが、お客さまの業務について幅広くいろいろな知識を有していないと、日立製作所の有識者の方と話ができません。ですから、当時の現場では開発だけとか特定分野のシステムだけという関わり方ではなく、より広く業務を見て知識を習得してきました。たとえば、とすれば細かい技術的な話へ進んでいってしまう場面で、「いやいやそういう技術的な話を聞きたいわけではなくて、もっと大きな括りでシステムの話を聞きたいんです」と、日立製作所の立場に立つてパートナー企業さんとやり取りすることもありました。そうした経験もあり、最近はまだ携わっていませんが、業務の有識者としてシステムのレビューに参画することもあります。しかし、部長になった今はどちらかというと有識者のな立場は極力後進なり他の方に譲るような形で管理中心に仕事をしています。

粘り強さと コミュニケーション力が強み

――深瀬様と弊社とのお付き合いはいつごろからになりますか。

深瀬…IKIさんのリーダーの方とシステム開発を一緒にやらせていただいたのは最近です。日立製作所に出向していたときはIKIの方と深い交流はありませんでしたが、「これはどうなんですか?」といういろいろ質問をして教えていただいたことは多かったですと思います。2017年頃に出向から戻って稼働維持/保守開発作業に携わっていましたが、2023年10月に支援給付金システムの機構改善案件の稼働があり、その2年前くらいから開発作業へIKIさんにも入っていただきました。IKIさんと一緒に仕事をしたのはそのシステム改修がきっかけですね。

――弊社はホスト系システムを担当しているということですが、その中でどのような役割を担っていますでしょうか。

深瀬…最近で言えば、先ほどお話しした支援給付金制度に関わる業務システムを担当いただいています。そもそも支援給付金システムのベースとなっている年金給付システムの歴史は古く、基礎年金番号が導入された1997年の頃からオンライン系システムの開発が活発に行われてきました。IKIさんを含めたパートナー会社の有識者の方々はその当時からずっと携わってこられていて、結構高齢化が進んでいます。そのような中でIKIさんは比較的若い方を入れて、総じて世代交代がうまくいっていない中でも後進の育成を上手にやっていたいただいていると思っています。

――弊社や弊社社員に対してはどのような印象をお持ちですか。

深瀬…システム開発の上流工程を1次受けの会社が担うというケースは多いと思いますが、当社においては、どちらかと言うとお客さまとの調整についてもパートナー会社さんに入らせていただいています。IKIさんには、仕様の調整やお客さまと要件の確認を行う要件定義のフェーズからも結構入っていただき、尽力していただいて非常に助かっています。

また、システムの話になりますが、昔はメインフレームで閉じたシステムも、最近では他のサーバーシステムと即時連携をするなどシステム構造・方式が複雑化してきており、長く携わってきても昔の知識が通用しない部分がかなり出てきていると思います。このような背景から、本来は稼働までの設計工程や要件定義工程で固めないといけないことが考慮できておらず、製造工程やテストの段階で明らかになるということが直近の開発でありました。IKIさんのメンバーの方には「稼働までに良いシステムを作らない」と、いろいろあがいてやっていただいています。そうした粘り強さやお客さまとのコミュニケーション力はIKIさんの強みなのかなと思いますね。

――ありがとうございます。提案力や業務改善力という部分ではいかがですか。

深瀬…IKIさんのリーダーの方と一緒に担当した開発が2024年4月に稼働し

ましたが、システム改修対象の業務機能は、もともとIKIさんの担当ではなく、まったくノウハウがない状態だったにもかかわらず、ノウハウがある別のパートナー会社さんへのヒアリングやシステムの影響調査、さらにはお客さまとの要件調整をやっていたいただきました。提案力とは少し違うのかも知れませんが、チャレンジをしながら、かつ関係するステークホルダーを巻き込んで物事を前に進めるところはパワーがあるんじゃないかなと思いますね。

また、去年からIKIのリーダーの方にはいろいろな作業に入っていたいています。お客さま向けのシステム概要研修会も担当していただきました。研修資料としてシステムの概要をまとめるところからでしたが、まったく知見のない範囲のシステム概要についても、設計書を紐解きつつ有識

者へ不明点のヒアリングなどを実施し、研修資料にまとめるといったことをIKIさんのチームでやっていただきました。最終的にはリーダーの方がお客さま向けに講義を実施し、お客さまより好評価をいただきました。私も参加していましたが、多数のお客さまを前に、堂々として素晴らしい講義でした。

次世代リーダーと 新しい技術習得への期待

――今、DXや生成AIなどいろいろなキーワードが出てきていますが、ご担当業務における今後の取り組みについて可能な範囲でお聞かせください。

深瀬…ホスト系で言うところのDXや生成AIは直接関係しませんが刷新化（オープン化）の計画はあります。いわゆる開発技術としてのホスト系の知識の必要性はもしかすると今後どんどん減っていくかもしれません。業務知識は刷新化でも生きてくると言えます。生成AIなどの新しい技術は、サーバー側のシステムのほうでいろいろ活用されていくのかなと考えています。

――弊社に対して、ここをもう少し頑張っ

てほしいな、ここは少し足りていないなと思われるところはありますか。

深瀬…これは他のパートナー会社さんも含めて言えることですが、後に続くリーダーの育成が喫緊の課題になっていると思います。IKIさんに関しても同じで、今時点

ではリーダーの方にチーム内の統制やお客さまなどのステークホルダー向けに幅広く対応いただいていますし、次世代のリーダーの教育もしていただいている育ってきているメンバーの方はいらっしゃると思いますが、まだまだこれからかなと感じています。

――ホスト系を担当している弊社メンバーへの期待をお聞かせください。

深瀬…ホスト系の開発技術だけで、この先、先細り傾向が進むと考えています。業務知識だけだと、サーバー系開発では一部の工程のみしか携わることができないことになるため、業務知識をアドバンテージとしつつJavaなどサーバー系の開発技術も新たに習得しないと、この先サーバー系の開発が主流となった際に活躍はなかなか難しいですね。IKIさんには若いメンバーが多いので、新しい技術の習得を期待したいですね。

――最後に趣味をお聞きしたいと思います。

深瀬…以前からIKIさんには、「ゴルフをいつから始めるんですか?」と言われていましたが、昨年からようやく始めました。先日、社内の人間とラウンドデビューをしましたので、まだまだ初心者ですが、今後はIKIさんからの誘いにもお応えできそうです(笑)。

――本日はどうもありがとうございました。今後ともどうぞよろしく願っています。



特別企画

ブレイクタイム

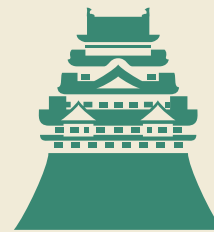
BREAK TIME



いま、社会が、ビジネスが、生活が、私たちを取り巻く環境が、日々刻々と急激に変化しています。その変化のスピードは凄まじく、時として自分の立ち位置がわからなくなることがあるのではないのでしょうか。そうした時代に生きる私たちの「いま」と「これから」を考える」をテーマにした特別企画「ブレイクタイム」。仕事や勉強の合間にお読みください。

楽しい城めぐり

～戦国時代の城にいざ、出陣～



山城ガールむつみ氏

考えることで、知的好奇心が刺激されます。戦国時代の城の魅力は、なんといっても身近にあることです。なんせ、日本全国に数万もあるのです。気づけば私たちの周りにたくさん存在します。天守が建つ城は、数が限られるため、なかなか気軽に訪れることができませんが、星の数ほどある戦国時代に築かれた城は、思い立てばすぐに足を運ぶことができます。ちなみに、都市部でも、意外とあちこちに城が残っていて、そこかしこに戦国時代の痕跡を見ることが出来ます。約150年続いた戦国時代。諸勢力がぶつかり合い、各地で戦いが繰り広げられ、たくさん城が築かれました。都内でも、太田道灌に攻め落とされた石神井城（練馬区）、名門吉良氏の世田谷城（世田谷区）、千葉氏のお家騒動の舞台赤塚城（板橋区）など、枚挙にいとまがありません。

16世紀中頃、房総里見氏と小田原北条氏が東京湾を舞台に戦いを繰り広げると、沿岸部には「海城」がたくさん築かれました。現在、東京湾フェリーの金谷港がある金谷には、里見氏の重要拠点になった金谷城（現TJKリゾート金谷城の敷地）があり、周辺には造海城（富津市）、勝山城（鋸南町）など、里見氏ゆかりの海城がずらりと並んでいて、戦乱の世の緊迫した状況を感じることが出来ます。海を眺めながら、行き交う水軍の船団を想像し、往時に想いを馳せるのも楽しいです。

気づけば、私たちの日々の景色の中に必ず城が存在し、そこには地域ごとのロマンあふれる歴史が詰まっています。通勤電車から眺めている山休日ハイキングで歩く山も、実は山城かもしれないのです。山を歩いていると、突然現れるデコボコした地形、もしかしたら堀や土塁かもしれないかもしれません。ぜひ、身近にある「城」を通して、歴史を楽しんでください。

【執筆者プロフィール】



山城ガール
むつみ

歴史&山城ナビゲーターとして、歴史や城をテーマにしたイベントや講座、ツアーを多数開催。地域活性のため、埋もれている歴史掘り起こし等、歴史コンサルとしても活動し、御城印デザインやプロデュースも手がける。各地の行政とのタイアップ企画多数。

「城」というと、そびえたつ白亜の天守や、黒の板張りの天守を想像する人が多いかもしれませんが。そのような天守が建つ城は、全国で約100城ほどあります。そのほとんどが、戦後の復興目的で建てられた復興天守や、観光目的で建てられた模擬天守と呼ばれる建造物です。江戸時代以前に建てられ、今に残る天守は全国でたった12。弘前城、丸岡城、松本城、彦根城、犬山城、姫路城、備前松山城、松江城、伊予松山城、宇和島城、高知城、丸亀城です。これらは「現存天守」と呼ばれ、世界遺産や国宝指定重要文化財などに登録されていて、その歴史的価値ははかりしれず、かつ観光資源として活用され、抜群の人気を誇ります。

今回ご紹介するのは、このような豪壮な天守を持つ城ではなく、戦国時代に各地に無数に築かれた城です。これらは、「中世城郭」とも呼ばれ、その数は、数万にのぼり、各都道府県に1000城前後あるとされます。これらの城には、建造物は残っていません。見方がわからないと、「何もない」と思ってしまうかもしれませんが、目をこらすと、当時の人々が施した堀や土塁といった城の遺構が現地に残り、私たちを戦国時代に誘ってくれます。

「城」という字は「土で成る」と書くように、城とは領内の政治、経済、文化、生活などを守

初陣向け！

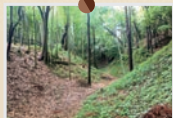
山城ガールむつみ オススメの城

滝山城（八王子市）

北条氏照の居城。技巧的で防御性が高く、戦国時代の臨場感を肌で感じられる城。ダイナミックな堀や、復元された木橋などは必見。

小机城（横浜市）

太田道灌に攻め落とされた歴史ロマンあふれる城。戦国時代後期には、小田原北条氏の支城に。ぐるりと本丸を取り巻く堀の迫力にビックリ。



▲ 空堀

小田原城（小田原市）

小田原北条氏の本城。江戸時代の天守を再現した復興天守周辺には、豊臣秀吉来襲に備えて造られた「総構（そうがまえ）」と呼ばれる約9kmにわたって巡らされた圧巻の堀と土塁が残る。小田原城を攻めるため、豊臣秀吉が築いた石垣山城（一夜城）もぜひセットで。



▲ 総構の空堀

本佐倉城（酒々井町）

下総守護千葉氏の本城。防御性のみならず、見栄えを考え、工夫され造られた東山虎口は必見。香取の海（現在の印旛沼）の水運を掌握する要衝地。

鉢形城（寄居町）

北条氏邦の居城。荒川に削られた河岸段丘上に築かれた天然の要害。角馬出[※]など、北条氏の築城技術を楽しむことができる。

金山城（太田市）

上杉謙信にも攻められた歴史ロマンの残る城。山の上に、突如として現れる美しい石垣はまるで秘境のよう。石造りの大手虎口は、他では類を見ない素晴らしい。



▲ 大手虎口

唐沢山城（佐野市）

何度となく戦いの舞台になった佐野氏の居城。本丸は神社になっていて、気軽に訪れることができ、本丸の高石垣や、口径8mの大井戸など、見どころが多い。

山中城（三島市）

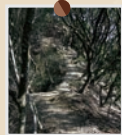
豊臣秀吉来襲に備えた小田原北条氏の支城。ワッフルとも表現される「障子堀」と呼ばれる北条氏が得意とした堀も復元されていてワクワクする城。



▲ 障子堀

高天神城（掛川市）

武田VS徳川の激戦の舞台。壮絶な戦いを物語る城の遺構が、手つかずに残っている。「犬もどり猿もどり」と呼ばれ、獣も引き返すとされた土橋には鳥肌。



▲ 土橋「犬もどり猿もどり」

ひとつとして同じ城はなく、バリエーションに富んでいるので飽きることがありません！心、体、頭が喜ぶ「百利あって一害なし」の究極の大人の趣味かも！？



城のパーツ紹介！

ほり堀	土や岩を掘って、敵が攻め込めないようにした。尾根を断ち切る「堀切（ほりきり）」、山の斜面を縦に掘る「縦（たて）堀（ほり）」などの種類もある。
どろい土塁	土を盛って壁を作り、敵の侵入を防いだ。
どろい土橋	堀を掘るときに土を掘り残し、もしくは盛ることによって造られた橋。
こゑ虎口	城の出入口のこと。門や木戸を建てていたと思われる場所。



現地で楽しんでください！

※地勢が險しく守りやすく攻めにくい場所

そのため、土木工事によって築かれた建造物を指します。戦乱の世に築かれた城のほとんどが、山の要害性[※]を利用して築かれているため、「山城」と呼ばれています。

山城は、山頂部の本丸を中心に、自然地形を生かして設計され、本丸を守るために土を掘ったり、盛ったり、石を積んだり、様々な工夫をして戦いに備えました。このような城を歩くと、当時の人々の息づかいが聞こえるようで、歴史ロマンを感じてワクワクします。私は、天守などの建物が残る城よりも、山の中に突如として現れる苔むした石垣や、土塁、堀のような「土のあと」を今に残す城に心が震えます。何百年も手つかずの状態に残るその遺跡に想いを馳せ、歴史を

※ 馬出とは、城郭における防衛装置の一種で、虎口の前（外側）に堀を隔てて設けられた小さな空間のこと。



わが社の

トップ・エンジニアの軌跡

②9

「しっかりとしたモノ(システム)づくりと高品質のサービス」を掲げ、”選ばれる会社”を目指すアイエックス・ナレッジ（I K I）。この強気フレイズの裏付けは、他ならぬ人材にあります。そうした人材群をリードしてきた”I K I”の現場の顔“トップ・エンジニア：今回の『わが社の匠』は、長く培ってきた豊富な業務知識で複雑な業務の全体像を把握し、お客さまの“困り事”を解決に導く対応力で信頼され続ける匠、野村貴広です。（編集部／本文敬称略）

家業を継ぐ前に社会人としての経験を積もうと就職したIT企業。大学在学中に興味を持ったコンピューターの世界に入り、社会公共関連のシステム開発に20年以上携わってきた。長年にわたり培ってきた経験から、お客さまの複雑な業務を広く把握する貴重な人材となった今回の匠、野村貴広の仕事への向き合い方とは。

社会人としての経験を積むためにIT業界へ

将来は家業の蕎麦屋を継ぐのだろうという思いを胸に野村が大学で経営学を学んでいたのは、ちょうどWindows 95や98の登場でパソコンが普及し始めたころだ。そうした時代背景もあり、コンピューターに興味を持ち始めた野村は、家業を継ぐ前に社会人としての経験を積もうと、IT企業を含む数社の選考にエントリーし、縁あってI K Iに入社した。

人生経験として飛び込んだはずのIT業界だったが、気づけば、入社後の配属から20年以上同じお客さまの下で公共系エンドユーザーのシステム開発に携わってきた。現在は、グ

「量的にも時間的にも、一番仕事をしていた時期だと思う。その分、システムの中のこととも理解していた」という。元々の物おじしな性格もあるが、若手ながらはつきり意見を言えたのは、こうした自負があったからだ。

お客さまやエンドユーザーの問題に“自分事”で向き合い、相手の立場で考えて動くうちに、「野村に相談すれば力になってくれる」と頼られる存在に成長していった。そんな野村の強い推進力が評価され、大きなトラブルの対応メンバーに抜擢されたことがあった。早期対応が必要とされ、現場の中でも馬力のあるメンバーが集結したそのプロジェクトでの経験を、「とにかく物事がスムーズに進む。仕事を楽しいと感じ、いい時期に成功体験を経験できた」と振り返った。

トラブル対応で身に付けた2つの強み

自身の業務にまい進する一方で、他チームのトラブル対応にもよく顔を出していたという野村。「この前助けてもらったから今度はこちらが」という相互扶助の文化が職場全体に根付いていたことで、自然と自らトラブルに飛び込むようになった。他チームのトラブル対応をしているうちに担当範囲以外の業務にも精通していき、結果として複雑な業務の全体像を理解できるようになった。上司からも「豊富な業務知識が強み」と評価される野村の知識量は、こうした経験から身に付いたものだ。

トラブル対応をしていると、一見問題ないように見えても違和感を抱くことがあるという。例えば、「話に出てこなかったけ

誰かの“困り事”は“自分事”で考える

システムデザインサービス部

野村 貴広

のむらたかひろ



ど、ここはどうなっているのか？」と。この違和感を見過ごさず、別の角度から見直したり考えたりしてみると、問題が隠れていることに気付く。業務知識を身に付けることでシステム全体が見え、問題解決力も伸びたと自身の強みを分析している。

高いモチベーションは充実した私生活から

順風満帆にキャリアを歩んできたように見える野村だが、過去に職場環境の変化やプライベートルな出来事への対応に迫られてしまい、思うように働けない時期があったという。私生活が充実していない中で仕事に向き合っても、良

ループマネージャーとして複数のプロジェクト管理に加え、自身も案件に入り、エンドユーザー向け研修資料の作成なども担当する。業務内容が非常に複雑で、全体像を網羅的に理解している人はお客さまの中にも多くはない。その中で、長年にわたり培ってきた経験から業務の全体像を把握している野村に、「やってくれないか？」とお客さまから直接依頼があったという。作成した資料を使って、エンドユーザー60名ほどを前に研修も行っており、会場でその姿を見ていたお客さまにも、「堂々としていて頼もしかった」と評価された。

「エンドユーザーのために」が原動力に

自身の若いころを「生意気だった」と語るが、その裏には「エンドユーザーが困っているなら何とかしたい」という思いがある。この「エンドユーザーのために」という思いが野村の原動力となり、生意気だとわかっていても必要なのは都度、お客さまに直接掛け合ってきた。当時は泊まりがけや終電まで仕事をするのがあたりまえの時代。野村も毎日遅くまで仕事をしていた。

い成果を出せずモチベーションが下がってしまう。反対に、モチベーションが高い状態で仕事をすると、自分自身が楽しく取り組めるし、結果として良い成果を出すことができると感じた経験だった。だからこそ部下にも充実した私生活を過ごし、楽しく仕事をしてほしいと思うようになった。

その思いは、部下との関わり方からもうかがえる。話を聞くだけですべての問題を解決できるとは思っていないが、少しでも部下の心の負担が軽くなるならと、一人ひとりの話を聞く時間を多く設けている。時には、相手が話をしやすいように、野村自身のことでも隠さず話す。そういった時間を積み重ねて信頼関係を築くことが、プロジェクトを上手く回すための、野村流マネジメント術だ。

部長として新たなステージへ

私生活も大切にする野村の休日は、自身が学生のころに打ち込んでいたバドミントンの大会運営ボランティアをすることが多いという。オリンピック選手など日本代表の選手が参加する大会に関わることもある。私生活でも誰かのためを考えるその様子に、根っからの面倒見の良さがうかがえる。

この春、所属しているシステムデザインサービス部の部長に就任した野村。部下思いの大きな器で部門を率いる匠の、新たなステージでの活躍に目が離せない。

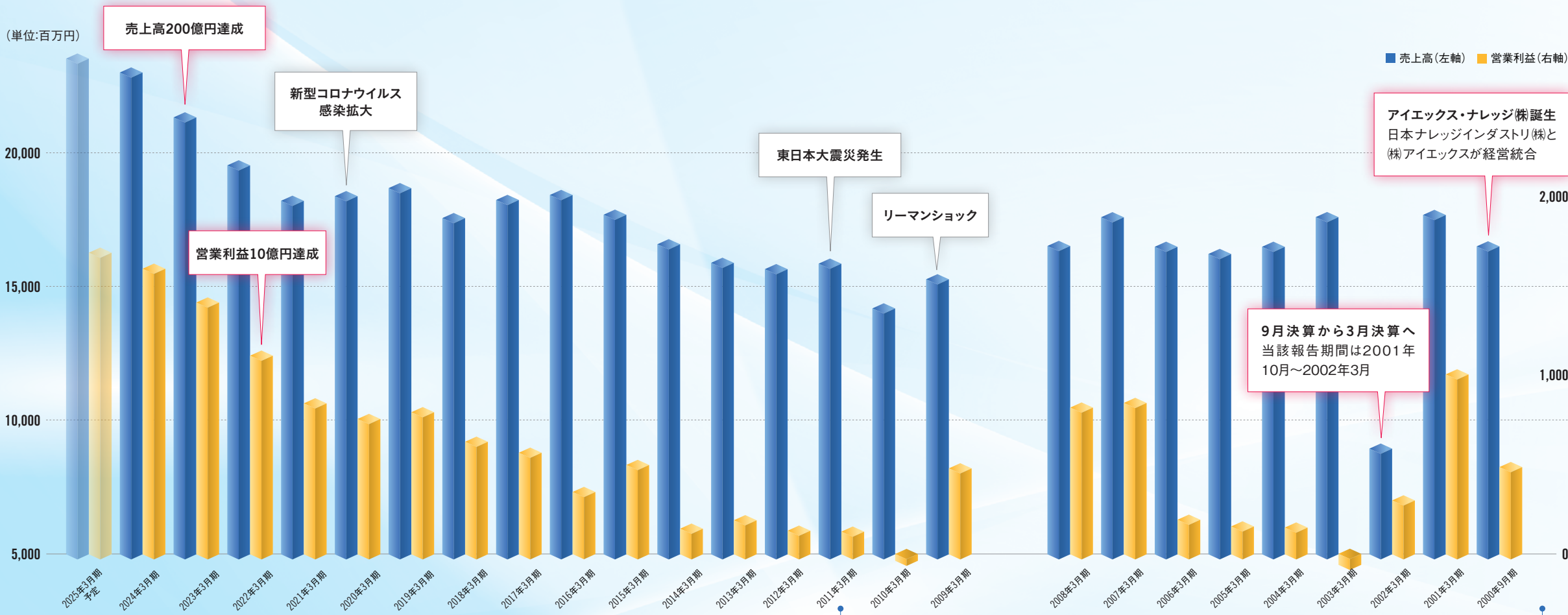
※このインタビューは、さる1月27日に行いました。

次の25年に向けて

IKIの成長を つなぐ



2024年10月に誕生25周年を迎えたアイエックス・ナレッジ（IKI）は、「社会と1人の未来をつなぐ（Connecting people one world）」のグループパーパスと共に、次の25年に向かって歩き始めました。当社の成長の振り返りと、IKI 25周年記念企画を紹介します。



- | | | | | |
|--|---|--|---|--|
| <p>※2023年3月期から連結</p> <p>2010年代後半～2020年代前半</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年10月に、IKI誕生20周年を迎える。 ・コロナ禍でDX化が加速し、クラウド化やリモートワークなど社内デジタル化を推進。 ・(株)シーアンドエーコンピューターを子会社化。 | <p>東日本大震災後(2011年～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラウド活用やBCP強化の流れを受けて、AWS構築サービスや自社クラウドソリューションを提供。 ・社会貢献活動の一環として、小学生向け「ロボット&プログラム体験教室」を開始。 | <p>リーマンショック期～2010年前後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2009年10月に、IKI誕生10周年を迎える。 ・スマホアプリや短納期開発が増え、品質保証へのニーズが高まる。 | <p>2000年代前半～中盤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ITバブル崩壊後も教育子会社の設立やISO取得を進め、安定したSI受注基盤を確保。 ・北洋情報システム(株)(現HISホールディングス(株))と資本・業務提携を開始。 | <p>誕生期(1999年前後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンサルから運用保守まで一気通貫でサービスを提供する独立系Sierとして出発。 ・インターネット普及やY2K問題への対応需要が急増し、大手金融・通信などで実績を積み。 |
|--|---|--|---|--|

この節目の年に立ち上げた当社ワーキンググループ(WG)で決定したIKI25周年のテーマは“つなぐ”。WGではこの“つなぐ”をキーワードに、周年ロゴやIKI各事業所共通の記念オブジェ制作などを企画しました。

会社と社員、社員同士を“つなぐ”IKI25周年記念企画

その他企画

- ・WG作成の周年ポスター制作、社内掲示
- ・周年特設サイトオープン
- ・全社員の思いを共有する全社アンケート
- ・役員や幹部から社員への周年メッセージなど

記念品制作

・イメージングシート

・周年ロゴ入りクオカード

周年ロゴ・テーマ決定

新潟事業所

関西事業所

本社

思い出の品制作

・ブックフォールディング

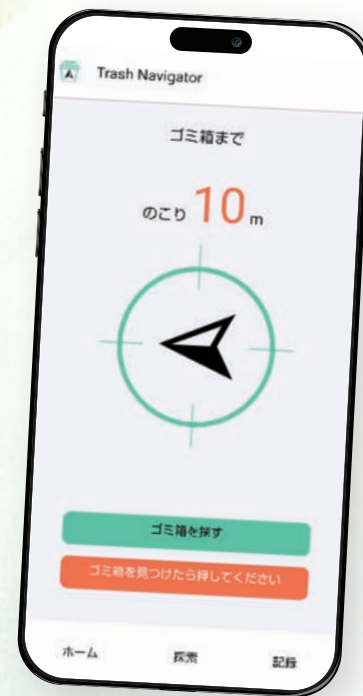
各統括本部から集結したWGのメンバーは全8名。対面&オンラインでの定期的な打合せを開催し周年プロジェクトを推進しました。

産学連携

産学連携で社会的課題解決への取り組みを支援

～WEBアプリケーションを活用したゴミ散乱対策の実証実験に参画～

アイエックス・ナレッジ（以下、当社）は、グループ会社であるHISホールディングス株式会社と共に、
釧路公立大学経済学部 皆月昭則教授とゼミ所属の学生が進める研究開発を
ビジネス視点で支援する産学連携の取り組みを推進し実証実験に参画しました。



アプリケーション「Trash Navigator」の表示画面イメージ

釧路公立大学の皆月教授とゼミ所属の学生は、テロ対策や感染症予防のため公共のゴミ箱の数が減少傾向にある日本で、地域住民や観光客がゴミ箱を見つけられずポイ捨てをしてしまう社会的課題に着目。この課題の解決を模索する中で近隣のゴミ箱までの道のりを誘導案内するWebアプリケーション「Trash Navigator（トラッシュナビゲーター）」を企画・開発しました。

その「Trash Navigator（トラッシュナビゲーター）」を「くしろ冬まつり」「さっぽろ雪まつり」の来場者に使用していただき、同アプリの評価を得ることを目的として実施した今回の実証実験。

多くの協力者の方々から「画面がシンプルで操作しやすくてわかりやすい」という意見をいただいており、ユーザビリティの面では一定の評価を得ることができました。

本実証実験の結果から社会的課題の解決を目指す釧路公立大学の研究を、当社は引き続き支援してまいります。

実験概要 実証実験協力者総数：324名

実施内容	各会場の来場者に、スマートフォンからQRコードを読み込むことでアプリにアクセスしてもらい、近くのゴミ箱まで案内するアプリの機能を使用・体験いただき、その評価を得る。
日程	2025年2月1日(土)～2月2日(日)
会場	くしろ冬まつり会場
実証実験協力者数	188名
日程	2025年2月10日(月)～2月11日(火・祝)
会場	さっぽろ雪まつり つどーむ会場
実証実験協力者数	136名



くしろ冬まつり会場の様子



さっぽろ雪まつり つどーむ会場の様子

COLUMN

神保町を歩く

社外取締役
佐藤孝夫

散

歩がてら、書店巡りを楽しんでいる。単に書店を巡るのではなく、御書印なるものを入手しながら巡っている。「御書印って何？」初めてこの言葉を聴く人が多いかもしれないが、一言で言えば、御朱印の書店版のことだ。2020年にプロジェクトがスタートし、現在では全国で約500店以上が参加している。参加店に行くと御書印帖にオリジナルのスタンプを押してくれる。お店を選んだモチーフも一筆加えられる。どんな言葉と出会えるか楽しみの一つである。

今

日は神田神保町にきた。神保町は言わずと知れた『本の街』だ。古書店や新刊書店が180軒以上も集まる世界一の書店街だ。さらにグルメの街、学生の街でもある。神保町は多様な側面を持つ、つまり、散歩するには最高に楽しい街なのである。

神

保町のシンボルである三省堂本店へ向かった。建て替えのため、小川町へ仮移転中だったが、移転先へ向かう。店内の客足は疎らで、寂しい感じであった。しかし、御書印を貰うには好都合で、他の

お客を気にせずに済んだ。
『なに見えん！見えん事があるものか』
(菊池寛「父帰る」)

す

ずらん通りには老舗の東京堂書店がある。ロンドンの書店を模したクラシックな趣の洒落た外観からは、気品が漂っていた。店内は昭和っぽさが残るレトロな雰囲気、落ち着いた気分になれる。台湾本を推している本屋としても有名で、多数の台湾本が陳列されていた。

『日本より頭の中のほうが広いでしょう』
(夏目漱石「三四郎」)

す

ぐ近くに、中国・アジアの専門店である内山書店がある。創業者が中国の文豪である魯迅と親交が深かったことから、日中の文化交流に役立った。中国では教科書にその名が載るくらい有名な書店である。御書印は創業者のものと魯迅のものと2種類が用意されていた。

『地上本没有路、走的人多了、也便成了路』
(魯迅「故郷」)

訳…もともと地上には道がない。歩く人が多くなれば、それが道となるのだ。

神

保町の交差点に小さな書店がある。猫好きが訪れる猫本専門店にやんこ堂だ。店内は極めて狭いが猫関係の本、グッズでぎっしり。多数の猫の写真も飾られた癒しの空間である。ここでの一筆は想定していたとおりだった。

『吾輩は猫である。名前はまだない。』
(夏目漱石「吾輩は猫である」)

今

日の日程をすべて終了。喫茶店に入り、コーヒーを啜りながら、本日の戦果に目を通す。御書印に添えられた言葉の意味や、由来に思いを馳せる。なんとも幸せな時間となる。

皆

さんも御書印帖を手に書店を巡っては、いかがでしょうか。本を通して、様々な人々との出会いや発見が待っていることでしょう。

